

令和4年度 都立本所工業高等学校（定時制課程）学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【学習指導】基礎学力を定着させ、ものづくりへの意欲や技術力の向上を目指す。

① 基礎的・基本的学力定着、学力差に応じた指導を推進した。

第1学年の「現代の国語」「言語文化」「数学Ⅰ」「英語コミュニケーションⅠ」では1講座2展開の少人数授業を実施し、「工業情報数理」1講座3展開で行い落ち着いて学習に取り組める授業形態を継続した。また、引き続き国語科と英語科でも第2学年、第3学年で習熟度別展開指導を実施した。

② 「全員進級・卒業」を目指し、年間を通じた放課後指導、学期末と Brush Up Program の取組を継続した。

③ 生徒による授業評価及び評価結果を授業改善のための基礎資料とした。

④ 第1学年の授業において、観点別評価を実施した。

⑤ 一人1台端末、ICT機器等のデジタル技術を有効活用している。

【生活指導】基本的な生活習慣の確立、規律遵守及び礼儀を重んじる心の育成を目指す。

① 生活指導統一基準に基づく規律正しい高校生活の定着を実施している。

② 毎日の登校時の校門指導で、生活指導部教員を中心にした声かけを継続し、授業欠席・遅刻の防止をはじめ、挨拶の励行や自転車の乗り方の指導を実施した。

③ 生徒全員に3回以上の個人面談を行うと共に、スクールカウンセラー、担任、教科担当、養護教諭等と連携し情報の共有化を図り、不登校傾向や様々な問題を抱えた生徒への支援と共に面倒見の良い個に応じた指導を推進した。

④ 1学期に避難訓練（地震）、生徒総会、部活動結成式、防災体験学習（そなエリア有明）、スポーツ大会（種目バトミントン）、健康セミナー（命を守る。水）、セーフティ教室（自転車シュミレーターによる交通安全教室）を実施した。

⑤ 2学期に防災講話（関東大震災）、自主避難訓練（想定河川氾濫による避難訓練）、普通救命講習（1・4学年）、セーフティ教室（薬物乱用防止教育）、環境講話（ごみの分別）を実施した。

⑥ 3学期に送別会（ボーリング大会）、子どもを笑顔にするプロジェクト（漫才）、避難訓練（火災）を実施した。

⑦ 前夜祭、本工祭、後夜祭については、参加者を制限して、生徒・教職員・PTA・同窓会までとし、一般の方を呼ぶことができなかった。

⑧ 今年度は、すべての行事を行うことができた。また、問題行動について他校への迷惑行為や飲酒・喫煙・暴力行為による特別指導も無く、1年間を終えることができた。

⑨ 学校医による健康診断を年度当初に行い、指摘のあった生徒には通院を促す等の指導を行いながら、継続して生徒が健康管理できるよう指導をした。

⑩ 避難訓練では、消防署と連携し、地震や火災、洪水等を想定した訓練を年4回実施した。

⑪ 学校設定科目「人間と社会」については、1学年から3学年まで3年間継続して履修させる指導方法を取り、指導計画に基づき適切に指導した。1学年時に奉仕体験活動として、「葛飾区産業フェア」ものづくり体験補助を行った。

⑫ 全学年生徒に毎学期一回ずつの地域清掃を行わせ、社会貢献の精神を涵養することができた。

⑬ 部活動は通常通り活動できるようになり、生徒たちが喜んで活動をしている。校外

では、8月の全国高等学校定時制通信制陸上競技大会において3年生が、女子4×100m（東京チーム）で入賞した。10月の東京都定時制通信制総合体育大会において3年生が、女子100mHで入賞した。

【進路指導】進路指導部、学年、各教科が緊密な連携の下、組織的・計画的な進路指導を実施し、自己実現に向けた資質・能力の育成を目指す。

- ① 全学年を対象として、講演会や卒業生の社会人からの説明会、4年生から下級生に向けた就職活動報告会等のキャリアガイダンスを実施した。
- ② ハローワークと連携し、在学中の就業指導を実施した。
- ③ 地域の産業界と連携し、インターンシップを2回実施した。全学年が参加できるよう校内で調整し、生徒の就業に関する指導の充実を図った。
- ④ 4学年の生徒全員の就職率は100%にすることができた。

【学校経営】生徒の意欲を引出す『面倒見のよい学校』を目指して、工業高校としての魅力づくりを推進する。

- ① 年度当初に分掌ごとの年間目標を設定し、途中で振り返りを行うなど、各部主任が校務の進行管理を確実にしながら、各分掌の目標に基づいた校務運営を進めた。
- ② 管理職と主幹教諭の打ち合わせを綿密に行い、OJTに基づいた職務を遂行した。
- ③ 企画調整会議36回では、会議までに事前調整を行い、会議の円滑な運営を図った。
- ④ 実習において作品に工夫を凝らし生徒の学習する喜びを感じさせることができた。学期中の放課後、学期末の期間、長期休業中などの補習体制を充実させ、生徒の学力や技術力を引き上げるとともに資格取得指導にも努めた。
- ⑤ 学校行事では、生徒が主として運営に関わり行事を活性化することができた。
- ⑥ 区教委と連携し、中学校進路指導連絡会において、工業科定時制の学習内容や学校生活などの説明会を行った。
- ⑦ 授業公開週間を毎学期1週ずつ計3週設定して実施した。校内での学校説明会や個別相談会を時期を問わず随時実施した。学校案内の持参・送付等、募集広報活動を展開した。
- ⑧ 公開講座は、テニス教室（中級者）・レーザー加工機（ネームプレート・キーホルダー作成）を実施した。
- ⑨ 中途退学者数は、他の学校の受験や仕事に専念するなどの理由から3名であった。
- ⑩ 令和5年度入学者選抜一次（前期）応募者数は昨年度より2名減少したが、第二次募集に3名合格した。（計13名）
- ⑪ 基礎基本の定着や生徒の自己実現を図れるように工夫を凝らしながら、各生徒にひとつ上の目標を掲げさせるとともに、基本的な生活習慣の徹底を指導し、授業規律の確保を図り、定時制の工業高校として誇れる学校づくりに取り組んだ。

2 重点目標と方策、数値目標

◇学習指導【数値目標】

すべての科目の授業評価アンケートにおいて「もっと学習したくなる授業」：80%
すべての科目の授業評価アンケートにおいて、「しっかり準備をして授業に臨んでいる」：80%

【今年度の結果】

すべての科目の授業評価アンケートにおいて「もっと学習したくなる授業」：97%
すべての科目の授業評価アンケートにおいて、「しっかり準備をして授業に臨んでいる」：89%

・学期末にBrush Up Programの補講体制を構築し、全教員により学習に課題のある生

徒について補習を実施することができた。

- ・資格取得の受験者を対象に始業前の講習、学期中や学期末（Brush Up Program）、長期休業中に教科ごとに計画的な補習・補講・講習を実施した。
- ・3類系すべて揃った課題研究発表会を実施し、下級生にもものづくりの楽しさや失敗したことなどを発表することでやる気を引き出させる取り組みができた。
- ・各種の資格取得に結びつく授業や放課後等を活用して補習・補講に取り組み、基礎製図検定・機械製図検定…3名、計算技術検定…3級1名・4級8名、陸上特殊無線技士第2級（国家資格）…4名、電気工事士第2種…1名を合格させることができた。
- ・学習活動については、基礎基本の指導を徹底し、さまざまな工夫を凝らしながら生徒の指導に取り組むことができた。

◇生活指導【数値目標】

生徒が主体的に活動できる場の設定：年10回以上
学校行事参加率：90%
学校行事満足度：各行事で80%
校内美化活動への貢献度：80%
1クラス1日平均遅刻者数：1人未満

【今年度の結果】

生徒が主体的に活動できる場の設定：年21回
学校行事参加率：81%
学校行事満足度：各行事で91%
校内美化活動への貢献度：100%
1クラス1日平均遅刻者数：1.4人未満

- ・行事欠席者の補修として「学校行事Brush Up」を実施し、生徒の学校行事参加率を81%に減少したが、学校行事満足度は向上させた。また、行事を盛り上げ、生徒の学校への帰属意識を高めることにも繋がった。
- ・SCと連携した教育相談体制を構築し、生徒情報の共有を図ることができた。
- ・グループエンカウンターやセーフティ教室などを通して、自己理解や他者理解を図り、命の尊さなどを学ぶことができた。
- ・中途退学者は3名で、昨年度より1名減少した。今後も、スクールカウンセラーと連携し教育相談の一層の充実を図り保護者との協力体制を深めながら全員進級・卒業を実現する。
- ・部活動においては、生徒数が少ないため、対外部活動が積極的にできない現状がある。活動時間等の制約があるが、全ての部活動の活性化を目指す。

◇進路指導【数値目標】

インターンシップ：1～3年生、年間2回（1年生のみ1回）
就労支援：10回以上実施
4年生の進路実現率：100%

【今年度の結果】

インターンシップ：1～3年生、年間2回（1年生のみ1回）
就労支援：30回実施
4年生の進路実現率：100%

- ・面接週間などを活用した個別面談を3回以上全校体制で実施した。
- ・進路実現を諦めさせない面倒見の良い指導により4年生8名中8名が正規雇用就労者として決定し進路実現率は100%であった。就職指導において夏季休業期間中から会社見学や面接指導等の早期の取り組みを行った。

- ・キャリアガイダンスを年2回実施した。
- ・地域の会社と連携したインターンシップは年2回実施した。就職活動のための意識付けや意欲の高揚に資する指導を行った。
- ・4年間にわたるキャリア教育を計画的に実施した。

◇学校経営【数値目標】

生徒、保護者	本工に入学して良かった：80%
地域	本工の生徒は楽しそうに学校に通っている：80%
教職員	充実した一年を過ごした：80%

【今年度の結果】

生徒、保護者	本工に入学して良かった：91%
地域	本工の生徒は楽しそうに学校に通っている：81%
教職員	充実した一年を過ごした：90%

- ・募集対策を第一の目的として、本校を中学校や地域に周知するため、全教員による広報活動を展開した。一次の受検者11名、二次募集受検者3名、計14名となった。前年度より1名増となったが、辞退者1名がでたため、昨年と同様に13名となる。
- ・ホームページの定期的な更新に取り組み、学校説明会・体験入学、学校案内の送付など積極的に実施できた。
- ・校務（職員会議・企画調整会議は1時間以内）の平準化を図り、時間外勤務の縮減につなげた。

3 次年度以降の課題と対応策

- ① 生徒の基礎学力を高めるために、学力が不足する者に対する補習授業等を計画的に行い、取り残される生徒が出ないように工夫・改善をする。
- ② 規範意識を持たせ校則の遵守を徹底するために、「生活指導統一基準」をもとに本校の重点目標を定める。全教員による校門指導、声かけの重視と徹底を進める。
生徒が授業をきちんと受けるように全教員が共通理解をもち、学校全体で一貫性のある生徒指導を行う。
- ③ 進路指導部と学年とが連携して、キャリアガイダンスを1年次から計画的に行う。また、インターンシップについて計画的に推進し、進路指導を充実させる。さらに、上級学校進学希望者に対する学力向上指導を計画的、組織的に行う。資格取得については、組織的・計画的指導を実施する体制の整備に努める。
- ④ 部活動の活性化を図るため、入学当初に行っている。（部活動紹介・一斉部会）を毎学期ごとに開催し、平常の部活動指導が適切に行えるための体制作りをする。
- ⑤ 学校行事、ホームルーム活動をはじめとして各教科の授業においても、生徒の「人格」や「社会性」を向上させることに重きを置きながら、「道德教育」を推進する。
- ⑥ 不登校・中途退学経験者への学び直しの機会の提供や、困難を抱える生徒の自立支援等の多様な学びのニーズに応える「夜間定時制」としての役割を果たしていく。
- ⑦ 「ものづくり教育」を大切に教育課程や授業内容を検討し、「特色ある工業高校」としての教育活動を具体的に示せるようにする。
- ⑧ 中学校等への訪問や充実した学校新聞の発行等で、中学校や地域にPR活動をする。同時にその過程で得られた意見や学校運営連絡協議会等で聴取した意見を学校経営に活かしていく。本校が夜間定時制課程であることの魅力についてホームページや学校新聞などを通じ広く地域住民や中学生に積極的に情報発信していく。